

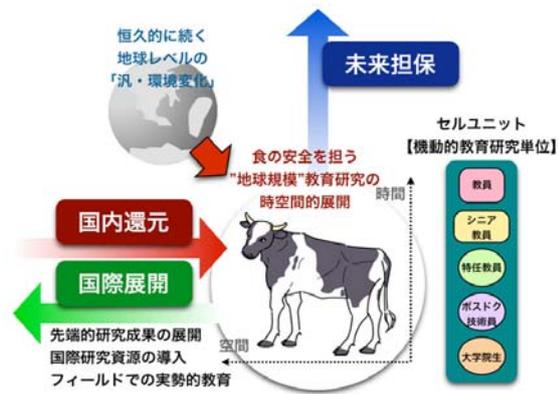
拠点形成概要及び採択理由

機 関 名	帯広畜産大学
拠点のプログラム名称	「アニマル・グローバル・ヘルス」開拓拠点 —地球規模の畜産衛生管理に向けた高度専門家育成—
中核となる専攻等名	畜産学研究科畜産衛生学専攻
事業推進担当者	(拠点リーダー) 嘉糠 洋陸 教授 外 14名

〔拠点形成の目的〕

近年、BSEや鳥インフルエンザの地球規模での流行や頻出する食品偽装事件など、食品を巡る諸問題が続発し、「食の安全確保」は日本のみならず世界レベルの最重要事項のひとつとなっている。これらの問題は感染症と直結していることがその特徴であること、これらは全て動物由来感染症であり、農畜産物を介して人に伝播する可能性が高いこと、アジアやアフリカの開発途上国を中心とした食肉生産のグローバル化が進められていることなどから、畜産衛生分野における食の安全への関心が急速に高まっている。そのために畜産・獣医学領域に新たな複合的学術基盤を構築し、感染症だけではなく地球規模の畜産衛生分野の展開に携わることができる、国際的に卓越した専門家の育成体制を確立することが急務である。特に、畜産衛生学分野における先端的研究の国際的展開および国内外を問わず活躍できる若手研究者・技術者の急激な需要増加として反映されている。そのような背景から、畜産衛生学の『国内』から『国外』そして『未来』に至る時空間的展開を指向した畜産衛生版「アニマル・グローバル・ヘルス」(AGH: Animal Global Health/Hygiene)の学問的擁立は、本学の存在意義の中に必然の流れとして生まれるに至った。本拠点形成の目的はこの一点にあり、新たな研究領域の開拓と大学院重点化単科大学としての本学の中長期目標とを重ね合わせ、全学一体となった国際教育研究拠点形成を目指す。

本拠点は、獣医学・畜産科学両領域の有機的な融合による新たな教育研究基盤をベースに、獣医・畜産系大学では唯一の全国共同利用施設である原虫病研究センター、日本に先駆けて畜産衛生における「食の安全」専門機関として創設された大動物特殊疾病研究センター、および21世紀COEプログラムによりその設置が強力に促進された畜産衛生学専門の大学院博士課程畜産衛生学専攻をその足場として据え、「食の安全確保」に貢献しうる、世界に伍する能力を持った専門家養成を実施する。これにより、世界の中でただひとつしか存在しない、畜産衛生版「アニマル・グローバル・ヘルス」に特化した国際的教育研究機関への飛躍的發展を目指す。



畜産衛生特化型「アニマル・グローバル・ヘルス」拠点

〔拠点形成計画の概要〕

本学は我が国で唯一の獣医畜産系単科大学として、大学院重点化単科大学の構想の下、日本の食料基地である北海道十勝の立地条件を生かし、農畜産に関する基盤研究実績にもとづく畜産衛生に特化した教育研究を実施している。平成14年度採択の21世紀COEプログラム「動物性蛋白質資源の生産向上と食の安全確保—特に原虫病研究を中心として—」により、人獣特殊疾病感染症の教育研究に特化した専門拠点となった本学原虫病研究センター、大動物特殊疾病研究センターおよび大学院畜産学研究科は、その実績を基盤として、世界最高水準を睨んだ畜産衛生特化型「アニマル・グローバル・ヘルス」の国際的拠点 (AGH拠点) 重点化を目指す。本拠点は、「セルユニット (機動的な教育研究単位)」を軸として展開する。このセルユニットは5人前後の教員・シニアプロフェッサー・若手研究者 (時限付き助教)・ポスドク研究員・大学院生等で構成される教育研究集団であり、機動的かつ柔軟性の高い組織単位である。このセルユニットの機動性を生かし、①高度専門研究能力②国際総合マネジメント能力③高い倫理感を含めたリーダーシップ育成の“三位一体型”戦略的人材育成を展開する。本AGH拠点は、「アニマル・グローバル・ヘルス」を【動物衛生】および【環境衛生】の二つのウィンドウから捉え、地球規模の視野に立脚し研究推進することにより、新しい学際領域の開拓を実行する。セルユニットを基盤として、アジア・アフリカ諸国における先端的研究成果の展開と、それらの地域から国際研究資源 (人的・物的) の導入を実施する。また、本学独自の国際協力実績をもとにアジア・アフリカの主要教育研究機関を核とした国際連携クラスターを構築・活用し、セルユニットによる研究実施過程を“高度専門教育の場”として取扱い、世界に先駆けたアニマル・グローバル・ヘルス高度専門家の育成をおこなう。これらのAGH拠点活動により、畜産衛生学領域から新たに生み出された世界オンリーワンの「アニマル・グローバル・ヘルス」教育研究拠点の構築・実質化を強く推進する。

機 関 名	帯広畜産大学
拠点のプログラム名称	「アニマル・グローバル・ヘルス」開拓拠点 —地球規模の畜産衛生管理に向けた高度専門家育成—
<p>〔採択理由〕</p> <p>「食の安全」の確保に関わる喫緊の最重要課題の解決を目指して「アニマル・グローバル・ヘルス」という視点から新たに「獣医学」や「畜産科学」などの学際・複合領域「畜産衛生学」を創生し、世界的教育研究拠点を形成する計画であり、地球規模の食の安全や家畜の衛生管理に貢献しようとする展望と戦略は明確で、大学の特徴を生かしたオンリーワンの拠点となり得る実績とポテンシャルを有しており、評価できる。</p> <p>人材育成面においては、21世紀COEプログラムにより畜産衛生学専攻の設置と原虫病研究センターの増設が行われ、専門家の育成体制が整いつつあり、フィールドとラボの融合による実践的・国際的な教育研究環境を整えようとする方針は高く評価できる。また、機動的教育研究単位（セルユニット）の意義や役割が明確で、「畜産衛生士」の育成についても堅実に計画が練られており、成果が期待できる。</p> <p>研究活動面においては、それぞれの事業推進担当者が着実に一定の成果を挙げており、日本・東南アジア・東アフリカ諸国・欧米と国際ネットワークを構築する計画となっており、将来の発展性が期待できる。</p> <p>ただし、今後、公衆衛生分野等との連携が必要ではないか。</p>	